

豊橋市における電気自動車普及の環境・経済影響評価

豊橋技術科学大学大学院 建築・都市システム学専攻
藤井友章, 宮田 譲, 洪澤博幸

アブストラクト

18 世紀後半から始まった産業革命以来, 石炭や石油を利用して人間の活動が飛躍的に拡大した。その結果, 地球温暖化を促進する温室効果ガスが著しく増加し, 近年の地球の平均気温は上昇傾向にある。代表的な温室効果ガスは二酸化炭素, メタン, 一酸化炭素などが挙げられる。それらの中でも二酸化炭素は全体の 94% を占める。さらに二酸化炭素の発生源を調べると, 約 20% が自動車の排気ガスとなっている。そこで本研究では, 自動車に着目し地球温暖化の緩和のため, 現在注目されている電気自動車(EV)を普及させた際の環境と経済影響を分析することを目的とする。そのため本研究では愛知県豊橋市を事例として, 応用一般均衡モデル(CGE)によって豊橋市で EV の生産や利用促進が補助金政策でどのように変化するかを分析する。